

平成22年度「日本海地域の自然と環境」共通講義日程

	(日 程)	(担当者)	(講義テーマ)
(前期)	4 / 8	センター長	導入+講義説明
	4 / 15	永井 二郎	地球温暖化のメカニズムと解決策
	4 / 22	石川 浩一郎	大スパン建築物の地震被害と避難所の役割
	5 / 6	磯 雅人	建物の地震被害と設計基準の変遷
	5 / 13	野嶋 慎二	景観とまちづくり
	5 / 20	山本 博文	能登半島地震と北陸地域の活断層
	5 / 27	川上 洋司	環境負荷の小さい交通まちづくり
	6 / 3	井上 博行	平成18年豪雪の被害状況
	6 / 10	吉田 伸治	福井地方の都市気候の現状と対策
	6 / 17	梅村 朋弘	ライフスタイル・生活環境と健康Ⅰ
	6 / 24	梅村 朋弘	ライフスタイル・生活環境と健康Ⅱ
	7 / 1	吉井 裕	光環境の変化にともなう植物の進化
	7 / 8	門井 直哉	古代の越前・若狭
	7 / 15	徳永 雄次	環境と物質
	7 / 22	福井 卓雄	福井県の原子力発電所立地と地域共生
	7 / 29	センター長	テスト
(後期)	10 / 7	センター長	導入+講義説明
	10 / 14	月原 敏博	日本の山川と森
	10 / 21	浅原 雅浩	ケイ素でつながる自然と材料
	10 / 28	中田 隆二	環境化学からみた水の役割
	11 / 4	大山 利夫	化学物質と生物
	11 / 11	小嶋 啓介	福井地震の被害と地盤条件との関係
	11 / 18	高嶋 猛	自然環境と住宅
	11 / 25	原田 陽子	住環境とまちづくり
	12 / 2	米沢 晋	自然から得るエネルギーの効率的な利用
	12 / 9	伊藤 隆基	環境と材料強度
	12 / 16	川本 義海	雪国の地域づくり・まちづくり
	1 / 13	膽吹 覚	日本海地域の失われた景観
	1 / 20	保科 英人	里地と少子化
	1 / 27	菊地 吉信	地域と住まい
	2 / 3	手塚広一郎	環境の経済的評価とその役割
	2 / 10	センター長	テスト

「日本海地域の自然と環境」について

- 講義は、木曜日第1限目（8：45～10：15）を予定しています。
- 講義室は、共用講義棟のK110です。
- オーディオラックの鍵は、工学部支援室にあります。
- 受講者数は、最大165名です。
- 講義室には出席管理システムが設備されていますので、学生が学生証をシステムに読み取るにより出席が登録されます。カードを忘れたと申し出た学生がいた場合は受講登録者名簿にその旨を書き込んでおいてください。小テストなどされた場合も同様に受講登録者名簿に記入してください。
- 工学部のJ a b e e 審査関係で、講義に使用した配付資料の提出が求められています。全ての資料の写し（プリントとして配付した物）を1部受講者名簿の入った封筒に入れて置いてください。